

第1回新しい築地をつくる会の概要

- 1 日 時 平成22年4月14日(水) 午後4時30分から午後5時47分まで
- 2 場 所 中央区役所 本館10階 第1委員会室
- 3 出席者 26名
※傍聴 区議会議員 14名、一般 3名、報道 5社(6名)
- 4 議 題 (1) 規約について
(2) 役員を選出について
(3) 築地市場移転問題の経緯について
(4) 豊洲新市場予定地における土壌汚染対策について
(5) 平成22年度東京都中央卸売市場会計予算について

5 議事概要

会員の紹介を行った後、古屋会長、矢田区長及び石島議長がそれぞれ挨拶。

その後、議事に入り、事務局から「新しい築地をつくる会」の規約(案)について提案説明を行い、質疑の後、原案どおり承認される。(質疑内容については、5-(1)に一括して記載)

続いて、規約に基づき、会長が副会長を指名。副会長は、國分勘兵衛氏に決定。

次に、築地市場移転問題の経緯、豊洲新市場予定地における土壌汚染対策、及び平成22年度東京都中央卸売市場会計予算について、事務局が一括して報告し、意見交換を行った。(主な意見については、5-(2)に一括して記載)

(1) 質疑

【区議】

- ・ 「築地市場移転に断固反対する会」の規約には、会の目的を達成するために行う運動についての条文があったが、「新しい築地をつくる会」の規約案には無い。本会の規約についても載せるべきだ。
- ・ 今回、構成員に都議会議員が入っていないのはなぜか。
- ・ 地元選出の都議会議員として、地元の意向を踏まえて行動してもらいたい意味でも、本会に参加してもらった方がよいと思う。
- ・ 会議は会長が招集することになっているが、別途、幹事会のようなものを設け、必要に応じて開催できるようにすべきだ。

【事務局】

行動指針についての規定は、「新しい築地をつくる会」規約案の「築地市場地区における活気とにぎわいのあるまちづくりに向けた対応」の中に含まれていると解してほしい。

都議会議員については、まずは地元の団体・区議会など区に直接関係する方々で構成することを念頭に置いていたため今回は声をかけなかったが、本日のご質問・ご意見等を踏まえ次回までに調整させていただきたい。

また、幹事会の設置については、今後、東京都において、現在地再整備や土壌汚染の問題を検討するという事なので、幹事会というよりも、事態の進展があれば直ちに本会を開催し、その検討状況を報告する方が良いのではないかと考えている。

(2) 主な意見

【場外市場関係者】

我々が「築地市場移転に断固反対する会」を立ち上げた当初は、確かに移転反対一辺倒であった。しかし、その後の都の市場移転に向けた動きは早く、また、都との話し合いの場も持てないような状況が続けば、いずれ場外市場は取り残されてしまうということで、区や都そして我々が話し合いの場を設け、万が一の場合にも築地の活気とにぎわいを絶やさぬようにしていこうと、改めて区に要請して、こうしたメンバーの方々の承認のもと、「新しい築地をつくる会」へと改組されたものである。今でも、地元で意見を聞けば場外市場の9割以上が移転に反対している。

我々は、これからの市場づくりなどに向けて、いま、さまざまな検討をしている。リニューアルした札幌や大阪のような市場では、お客様も扱い量も減っている。買い物をするお客様にとっては、あまりにも広すぎ、市場として機能していない。

我々場外は、市場の移転があってもなくても鮮魚マーケットを軸としたまちづくりを考えている。また、市場の機能が大幅変わってきているので、1つの案だが、スーパー、量販店、大手外食チェーンなど大型の取引を豊洲に移転し、残った仲卸を含めた新しい築地の場内・場外市場を整備したらどうかと思っている。

なぜ、観光資源として世界にも認知されている築地市場を全部移転させることばかり考えているのか理解できない。

なぜ、仲卸を含めたまちづくり、市場づくりを東京都が考えないのか不思議だ。

国・都・区関係なく、まちのにぎわいを保ちながら、理想とした市場づくりをしていくのが一番良い形であると思っている。

【区長】

現在地再整備という願いは全く同感である。しかし、万が一移転した場合でも、プロの料飲関係の方々にも通用するものを現在地につくっていく必要がある。

都の予算が可決されたとはいえ、不明な点が多々ある。4月16日には現在地再整備を検討する部署が知事本局内に設置される。また、これだけ大きな話題になっているんだから国も動くのではないか。したがって国や都、関係者の動きを冷静に見極めなければならない。

【場外市場関係者】

皆さん移転には断固反対している。その中で、都、区、反対派、賛成派の人たちがもっと話し合いの場を持って、仲卸を含めたよりよい築地の市場づくりができないか。大型流通を外せば、築地市場は、現在の何分の一かの敷地で十分だ。すべてが残せないなら一部を移転させて、豊洲に流通センターを作れば良い。豊洲の予定地のような大きな市場は必要ない。

【区議】

東京都は、10万人以上の署名を集めても聴く耳を持たず、区や区議会が要望書や意見書を出しても誠意ある対応をしないという中で、現在に至っている。都の態度はひどいと思う。2006年2月の総会で、このまま反対していても都との交渉が出来ないということで、苦渋の選択として「断固反対する会」の名称を変更した。しかし、その後も都はテーブルにすら着こうとしていない。

土壤汚染の問題が大きな世論となって、移転推進の方向に歯止めがかかっていた。この間の選挙結果を見ても、国民は築地市場の移転には反対している。

今こそ、会として現在地での再整備を改めて都知事や都議会各会派、国に求めていくべきだ。

【地域団体】

経営というのはお金が無ければやっていけない。どれだけの仲買さんが苦しんでいるか。我々は外から見ているが、利益の出ている所がどれだけあるか、実際に働いている方たちの苦しみをもっと理解してもらいたい。

【町会】

場外市場や消費者の方々が、豊洲への移転に懸念を示されているのは十分承知している。ただ、仲卸を商売として家族を養っている方たちの中には、現在地再整備では、いつ新市場ができるのか先が見えず、経営が成り立たないという不安を持っている方が沢山いる。消費者側からの視点も大事だが、市場で経営している方たちの痛みも加味しながら、この会を進めていって欲しい。

【町会】

これまで断固反対を訴えてきたが、東京都はそれを無視して移転の準備を進めていた。たまたま土壤汚染の問題が出てきたので、現在の状況になっているが、無ければ都はどんどん進めていたはず。このまま移転され、鮮魚と青果が残らないとなれば、場外市場はやっていけない。東京都と交渉して、土地を借りるなどして、豊洲新市場が開場する1年前には、鮮魚と青果の業者に来てもらえないと、築地はやっていけない。

移転の計画が決まってから場外市場の人達が頑張ったおかげで、むしろ客の数が増え、観光バスもたくさん来るようになった。築地は世界に通ずるものがある。その文化を守っていきたい。断固反対だけではどうしようもない。

【区長】

現在地で再整備することが私たちの最大の願いです。そのためにはどう対応したらよいかを、まずは今後とも真剣に検討してまいりたい。

ただ、この問題での区行政の権限が極端に制約されている中にあるのは、万が一移転した場合についても、責任ある行政として常に考えておかなければならない。「新しい築地をつくる会」の皆さんをはじめ関係者の方々にもその点を十分ご理解いただきたい。その場合に備え、鮮魚マーケット案をすでに提示している。これは東京都や区の土地などを有効に活用して、鮮魚マーケット・青果・駐車場などを整備し、築地のにぎわいと活気を維持していきたいというものです。今後も引き続き、皆さまと緊密に連携を図り、話し合っていきたい。

【会長】

今後は都や都議会における現在地再整備の検討や土壤汚染対策による安全の確認作業がなされることから、状況の変化に応じて、随時、本会を開催していく。引き続き現在地再整備を求めていくが、万が一の移転にも備え、活気とにぎわいのある築地の発展に向け、状況を見極めながら、適宜、要望や陳情活動を行っていきたい。